

# 奈良県総合医療センター産科婦人科専門研修プログラム

## 研修ローテーションの実際：

専門研修の1年目と2年目は、原則として多様な症例を経験できる奈良県総合医療センターで研修を行います。1年目は6か月毎、産科と婦人科を交互に研修します。主な研修目標は産科では正常分娩の取扱いと帝王切開の執刀で、婦人科では疾患の診断と術前検査および良性腫瘍手術の第1助手、悪性腫瘍手術の第2助手の習得です。2年目の前半では、再度各5か月間の産科と婦人科で、緊急帝王切開の執刀や骨盤リンパ節郭清を含む悪性腫瘍手術や腹腔鏡手術の執刀を目標にします。2年目の後半には、新宮市立医療センターでの1～2か月間の地域医療研修と産婦人科クリニックでの1か月の生殖医療研修が必須です。最初の2年間で研修終了要件のすべてが達成可能です。3年目は、専攻医の希望により大学病院での産科あるいは婦人科におけるより専門的な研修、大和郡山病院での産婦人科全般にわたる地域医療の研修、あるいは高の原中央病院での腹腔鏡手術を中心とした研修を6か月～12ヶ月単位で研修します。またサブスペシャリティの方向付けが明確になった場合には、広汎子宮全摘や傍大動脈リンパ節郭清の執刀医あるいは常位胎盤早期剥離や前置胎盤の出血などに対する超緊急手術の執刀医などの研修が可能です。

**症例数(2015年)：**婦人科浸潤がん70例、広汎子宮全摘8例、PAN郭清16例、周産期搬送受入れ152例、前置胎盤・早剥17例、

**スタッフ紹介(卒年)：**喜多恒和部長(S58)、井谷嘉男副部長(S60)、豊田進司医長(S63)、平野仁嗣医長(H4)、杉浦敦医長(H16)、石橋理子医員(H20)、他専攻医3名・研修医1～2名/月

婦人科腫瘍専門医3名・修練医1名、細胞診専門医2名、がん治療認定医4名、周産期修練医1名

**主催学会研究会等：**奈良産婦人科実地臨床研究会(年4回、過去21回)、奈良産婦人科手術手技研究会(年2回、過去5回)、2016年日本ヒト細胞学会、2017年日本産婦人科感染症学会

**科研費取得状況：**厚生省科研費HIV母子感染に関する研究班研究代表者(2015年～)・研究分担者2名(1997年～、2015年～)



## 研修コース



## 各研修病院における手術件数と分娩数(平成27年1月～12月)

病院	総手術件数	婦人科手術	子宮内容除去術	腹腔鏡下手術	分娩数	帝王切開
奈良県総合医療センター	1245	522	15	142	493	171
奈良県立医科大学	900	550	100	150	1000	350
帝京大学医学部付属病院	734	466	50	95	590	256
京都大学医学部付属病院	738	585	28	108	339	115
大和郡山病院	220	120	70	20	440	73
高の原中央病院	705	705	5	604	0	0
新宮市立医療センター	140	80	30	10	320	60
久永婦人科クリニック	0	0	0	0	0	0
好川婦人科クリニック	40	40	0	0	0	0
赤崎クリニック	35	5	40	0	280	65



H30年春に移転開院予定の新病院予想図とH28年4月の現地